

ウェルビーイング指標と町民アンケート からみる「移住・定住」

～ワークショップにあたっての素材提供～

2024年8月8日(木)
地域づくり会議④
分野別WS:「移住・定住」

町民意識調査アンケートについて

◎ 調査対象…満18～89歳の住民から2,500人を無作為抽出

◎ 実施時期…令和5年12月

◎ 回答者数…1,033人(回答率41.3%)

◎ 調査内容

A) ウェルビーイング指標の測定

B) 第5次総合計画[改訂版]における施策分野別の重要度と満足度



A) ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる
「移住・定住」

松川町の調査結果詳細

(デジタル庁のホームページで公開中)

下記QRコード or

「 デジタル庁 ウェルビーイング指標 」 で検索



「1.ダッシュボードを見る」



「ダッシュボードを見る」



「個別調査」

「2023年度版」

「長野県」

「松川町」を選択



ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる 松川町における移住・定住①<前置き>

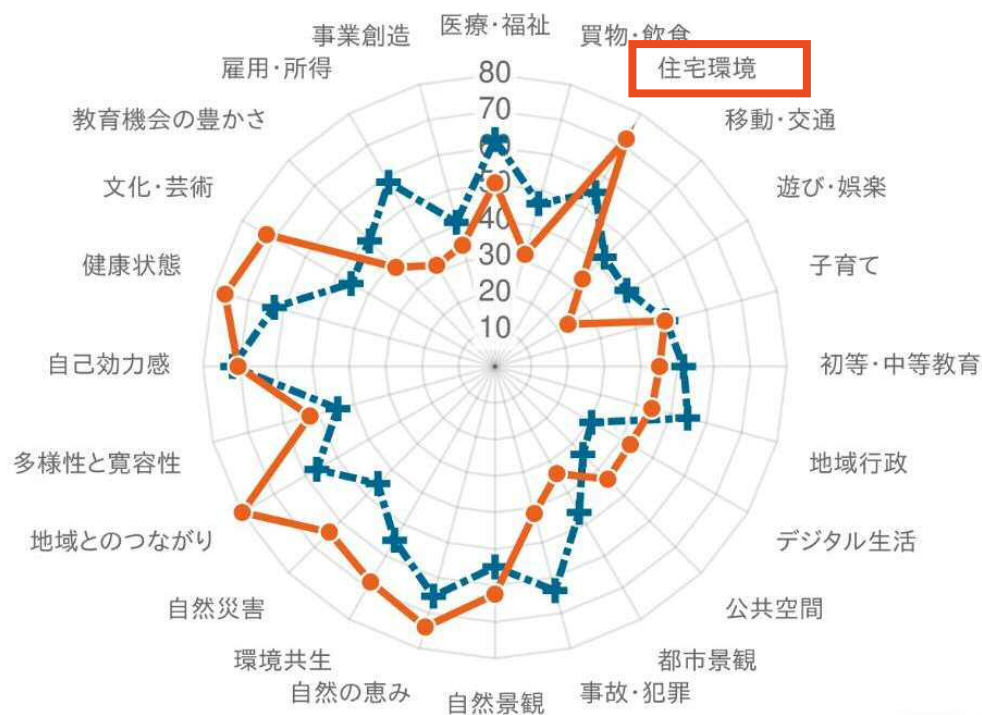
- 今回のテーマである
松川町における「移住・定住」を言い換えると、
現在松川町以外に住んでいる者が、松川町に住むことを選択し(＝移住)、
移住者や現在住んでいる人が、松川町に住み続けることを選択する(＝定住)
ということ
- 人が、新たに住む地や住み続けるかどうかを選択するにあたっては、
その方一人ひとりによって異なる具体的かつ複合的な事情・背景があり、
意思決定されるのではないか
- つまり、「移住・定住」を考えるにあたって、
ウェルビーイング指標上で着目する因子を特定すること自体が難しく、
また、複数の因子が絡み、様々な意見があると想定できる
(シンプルに見た場合は、松川町に「住む」環境＝住宅環境と捉えることもできる
が)

	脅威(T)	機会(O)
強み (S)	主観50以上・客観50未満の因子 文化・芸術 【主】72.3 【客】45.5 自然災害 【主】64.2 【客】45.4 多様性と寛容性 【主】52.5 【客】44.6	主観も客観も50以上の因子 地域とのつながり 【主】80.0 【客】56.4 健康状態 【主】76.6 【客】62.6 住宅環境 【主】72.0 【客】55.1 自然の恵み 【主】73.9 【客】65.2 自己効力感 【主】70.4 【客】71.9 環境共生 【主】68.2 【客】55.0 自然景観 【主】62.4 【客】54.9 医療・福祉 【主】50.3 【客】62.2
弱み (W)	主観も客観も50未満の因子 公共空間 【主】43.7 【客】34.1 子育て 【主】48.2 【客】48.5 デジタル生活 【主】42.8 【客】30.6 教育機会の豊かさ 【主】38.4 【客】48.7 事業創造 【主】34.4 【客】40.9 都市景観 【主】33.9 【客】46.2 移動・交通 【主】33.9 【客】42.4 買物・飲食 【主】31.8 【客】46.2 遊び・娯楽 【主】23.1 【客】41.7	主観50未満・客観50以上の因子 初等・中等教育 【主】45.1 【客】51.7 地域行政 【主】44.5 【客】54.7 事故・犯罪 【主】41.7 【客】63.6 雇用・所得 【主】32.0 【客】58.3

	脅威(T)	機会(O)
強み (S)	主観50以上・客観50未満の因子 ブランドイメージ先行 → やがて劣化していく恐れ システミックチェンジが必要 (お金がかかる)	主観も客観も50以上の因子 強み → 更に幸福度相関0.4以上は強強！
弱み (W)	主観も客観も50未満の因子 名実ともに課題 → 2つの選択肢 ↓ 介入するか(お金がかかる) 撤退するか(自然体でよしとするか)	主観50未満・客観50以上の因子 認知のバイアス → ずっとそこにいる事の弊害 客観的に強いのに気づいていない 知らしめることで認識が変わる

ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる 松川町における移住・定住－住宅環境①＜全体像＞

カテゴリー別



因子	主観	客観
医療・福祉	50.3	62.2
買物・飲食	31.8	46.2
住宅環境	72.0	55.1
移動・交通	33.9	42.4
遊び・娯楽	23.1	41.7
子育て	48.2	48.5
初等・中等教育	45.1	51.7
地域行政	44.5	54.7
デジタル生活	42.8	30.6
公共空間	43.7	34.1
都市景観	33.9	46.2
事故・犯罪	41.7	63.6
自然景観	62.4	54.9
自然の恵み	73.9	65.2
環境共生	68.2	55.0
自然災害	64.2	45.4
地域とのつながり	80.0	56.4
多様性と寛容性	52.5	44.6
自己効力感	70.4	71.9
健康状態	76.6	62.6
文化・芸術	72.3	45.5
教育機会の豊かさ	38.4	48.7
雇用・所得	32.0	58.3
事業創造	34.4	40.9

【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

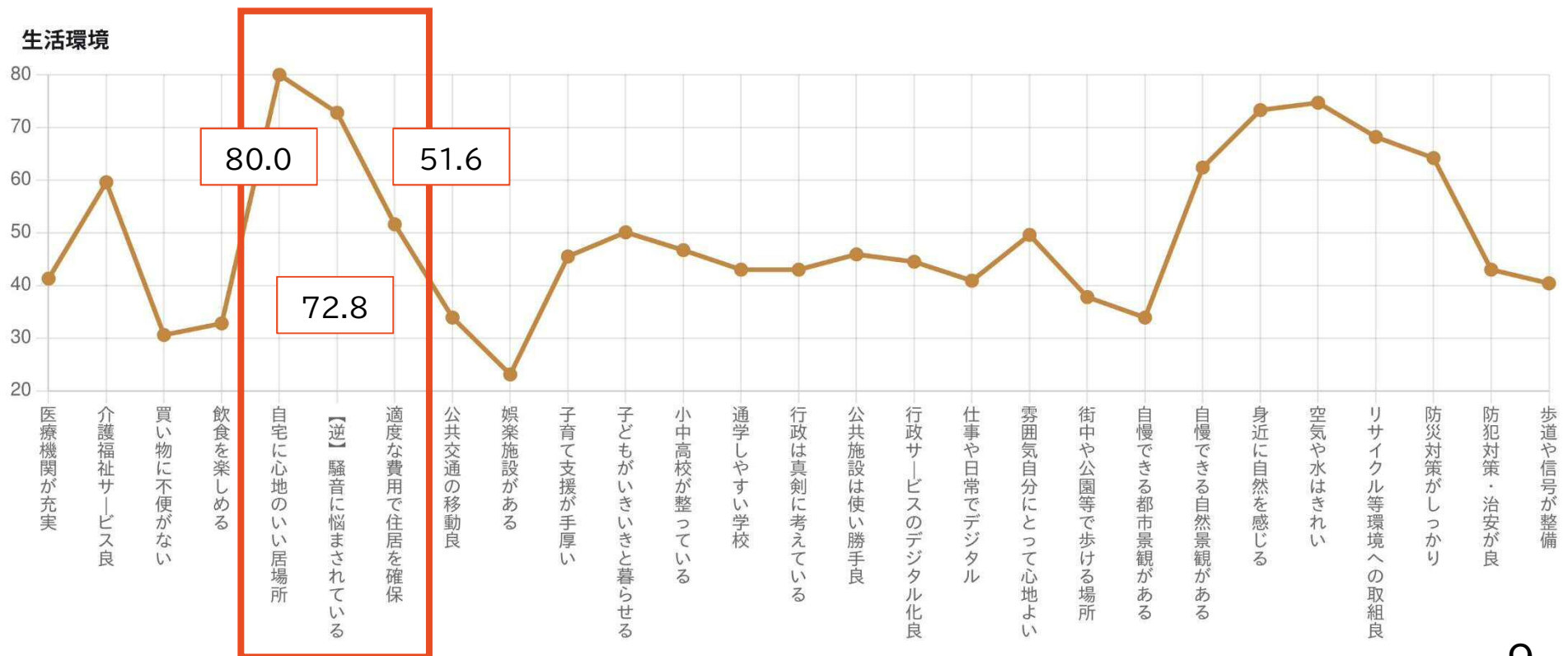
ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる 松川町における移住・定住－住宅環境②<主観>

■「住宅環境」について、 主観(アンケート)では、どのように聞いているか？

- ① 自宅には、心地よい居場所がある(居住空間)
- ② 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている
- ③ 適度な費用で住宅が確保できる

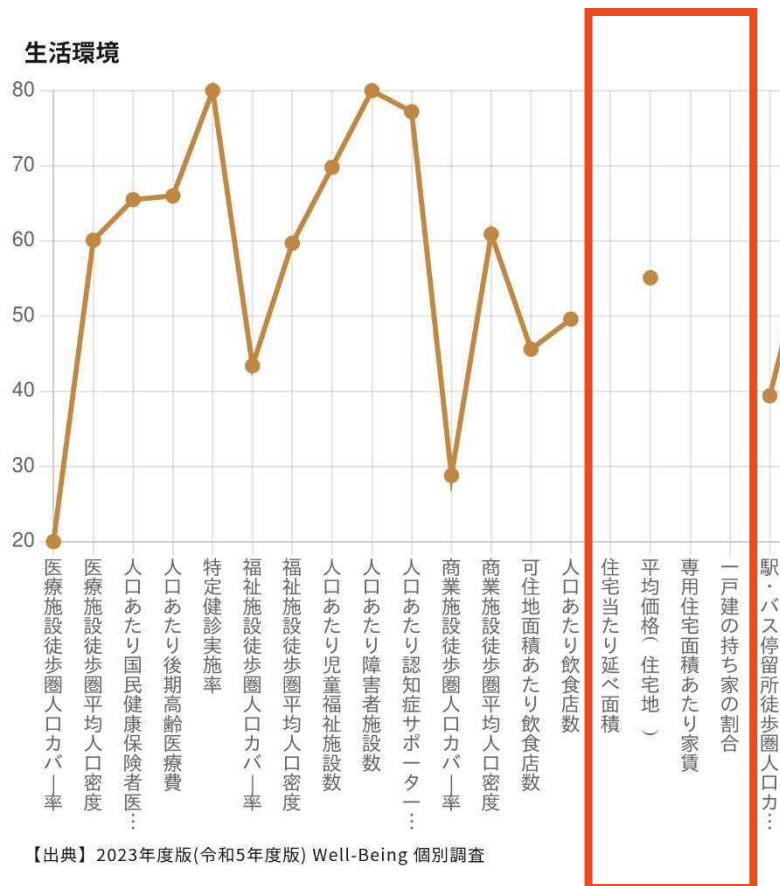
(非常にあてはまる=5

～ 全く当てはまらない=1 の5段階)



ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる 松川町における移住・定住－住宅環境③<客観>

■「住宅環境」について、客観指標は、どのようなデータか？



住宅当たり延べ面積 (データなし)

平均価格(住宅地) 55.1

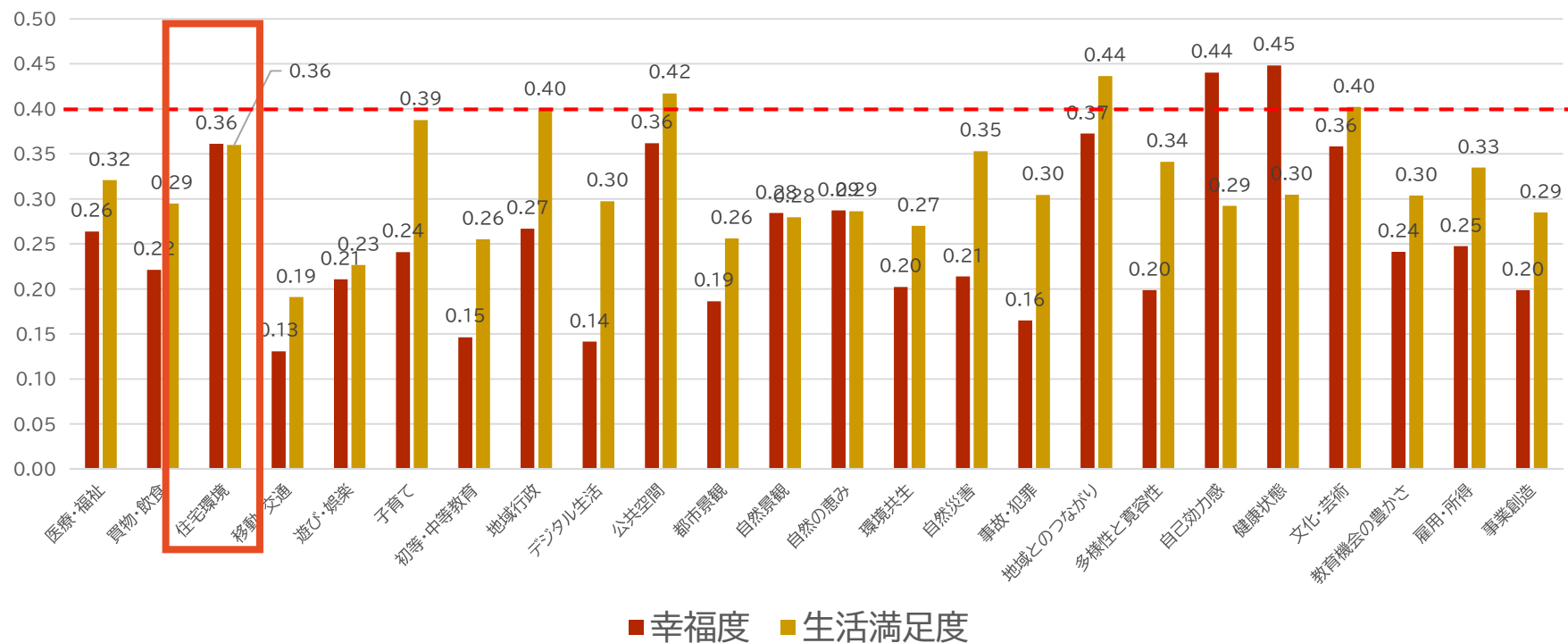
専用住宅面積あたり家賃 (データなし)

一戸建の持ち家の割合 (データなし)

ウェルビーイング(地域幸福度)指標でみる

松川町における移住・定住④＜幸福度・生活満足度との相関＞

- 「住宅環境」の因子が、幸せ実感(幸福度・生活満足度)とどのくらい関係があるか？
＝どのくらい相関があるか？



「住宅環境」因子は、幸せ実感において、幸福度・満足度ともに、
比較的強い関係にある と言える

Appendix(参考)

「住宅環境」因子の客観指標の出典カタログ

	KPI	利用データ（現状）					SCDによる更新予定
		調査年	公開 (更新年月)	更新 頻度	出典	次回データ 更新見込※	
1	住宅当たり延べ面積	2018	2019/9	5年	総務省「社会・人口統計体系」（原出典：総務省「住宅・土地統計調査」）	2024/9	2024/12
2	平均価格（住宅地）	2023	2023/3	1年	国土交通省「地価公示」ページの「変動率及び平均価格の時系列推移表」	2024/3	2024/12
3	専用住宅1㎡あたり家賃	2018	2019/9	5年	総務省「住宅・土地統計調査」	2024/9	2024/12
4	一戸建の持ち家の割合	2018	2019/9	5年	総務省「住宅・土地統計調査」	2024/9	2024/12

（引用：SCI-Japan WEBサイトより「地域幸福度(Well-Being)指標」利活用ガイドブック）



B)重要度・満足度の測定でみる
「移住・定住」

第5次総合計画[改訂版]における施策分野 (アンケート項目)

項目
1 持続可能な自治会や自治組織
2 男女共同参画の推進
3 町からの情報発信
4 行政サービスの便利さ
5 財政の健全な運営
6 移住・定住の推進
7 子育てに対する支援
8 結婚・出産に関する支援
9 小中学校の教育内容の充実
10 教育を支える体制や環境づくり
11 生涯学習の機会や環境の充実
12 健康の維持・増進など健康づくり支援
13 地産地消などの食に関する教育
14 障がい者に対する支援
15 高齢者に対する支援
16 生活困窮者に対する支援

項目
17 地域共生に向けたまちづくり
18 防災対策
19 道路整備
20 公共交通の便利さ
21 地域の自然環境の保全
22 公園の整備・管理
23 ごみの減量、分別とリサイクルの推進
24 自然エネルギーの活用
25 水道水の供給
26 下水道の整備
27 農業の振興
28 商工業の振興
29 企業誘致の推進
30 観光の振興
31 リニア・三遠南信開通に向けた環境整備

施策分野における重要度・満足度の上位5つ(偏差値)

<全体版>

満足度 トップ5&ボトム5

上位5項目(高い順)	
1	水道水の供給
2	下水道の整備
3	ごみの減量、分別とリサイクルの推進
4	地域の自然環境の保全
5	健康の維持・増進など健康づくり支援

下位5項目(低い順)	
1	公共交通の便利さ
2	企業誘致の推進
3	リニア・三遠南信開通に向けた環境整備
4	道路整備
5	移住・定住の推進

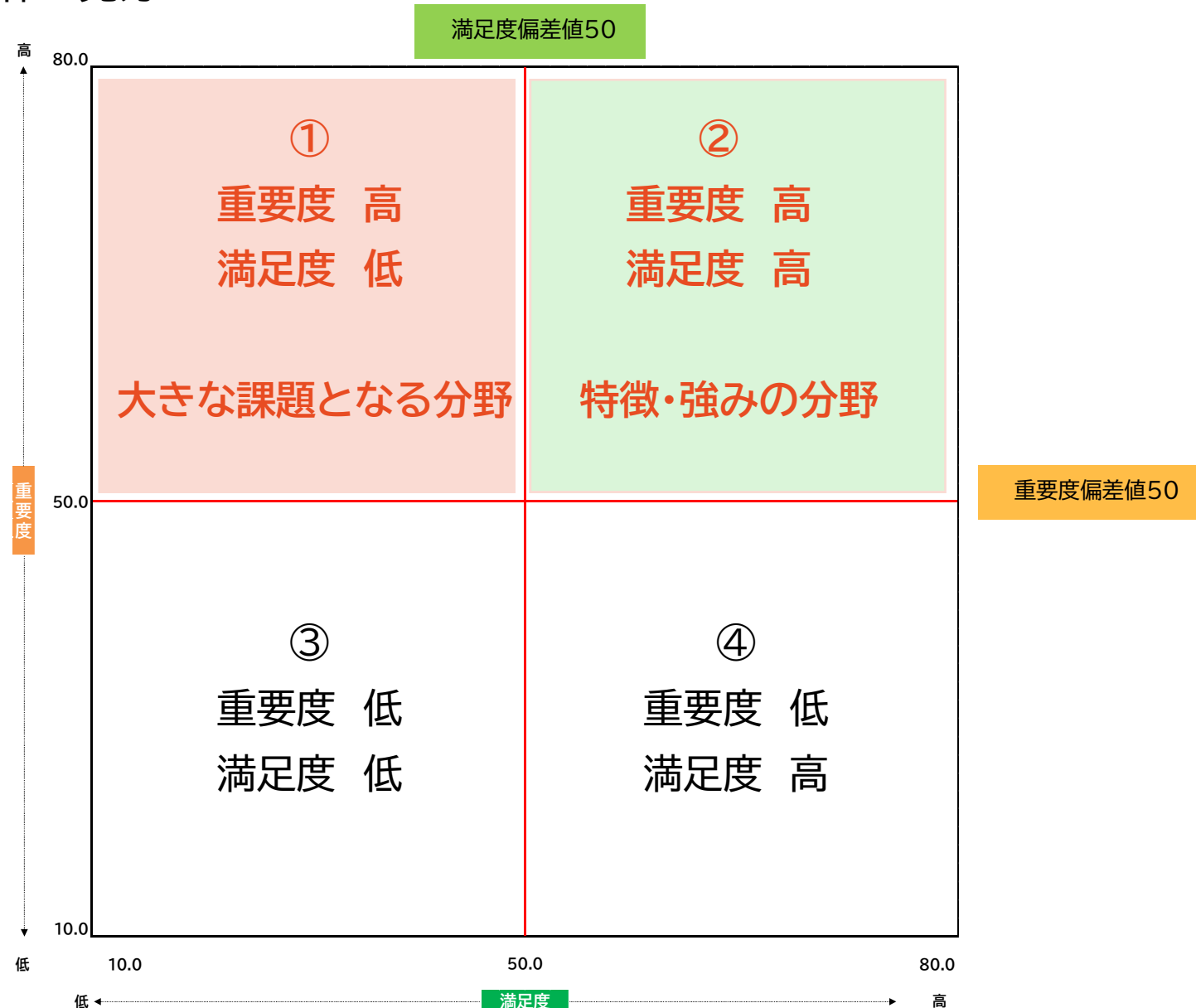
重要度 トップ5&ボトム5

上位5項目(高い順)	
1	水道水の供給
2	防災対策
3	下水道の整備
4	子育てに対する支援
5	教育を支える体制や環境づくり

下位5項目(低い順)	
1	持続可能な自治会や自治組織
2	男女共同参画の推進
3	地域共生に向けたまちづくり
4	リニア・三遠南信開通に向けた環境整備
5	生涯学習の機会や環境の充実

施策分野における重要度・満足度＜散布図にマッピング＞

全体の見方



● マトリクス表における各領域の拡大図

マトリクス分析した区分

1. 回答者全体
2. 10歳代～20歳代
3. 30歳代～50歳代
4. 60歳代～80歳代

それぞれについて、

「マトリクスの見方」の①～④の領域を拡大し、

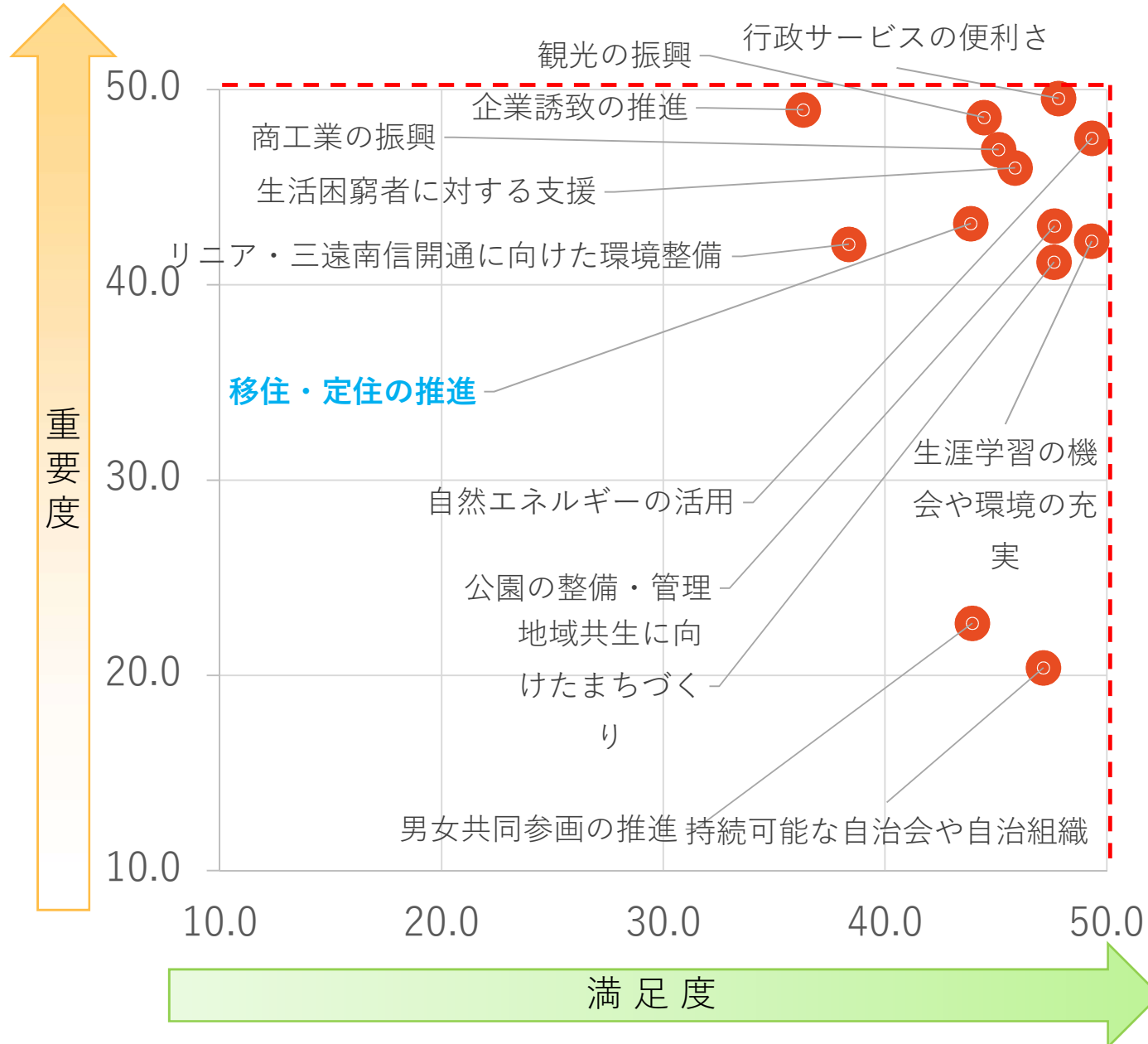
○ 移住・定住の推進

がどの領域に位置するか抜粋

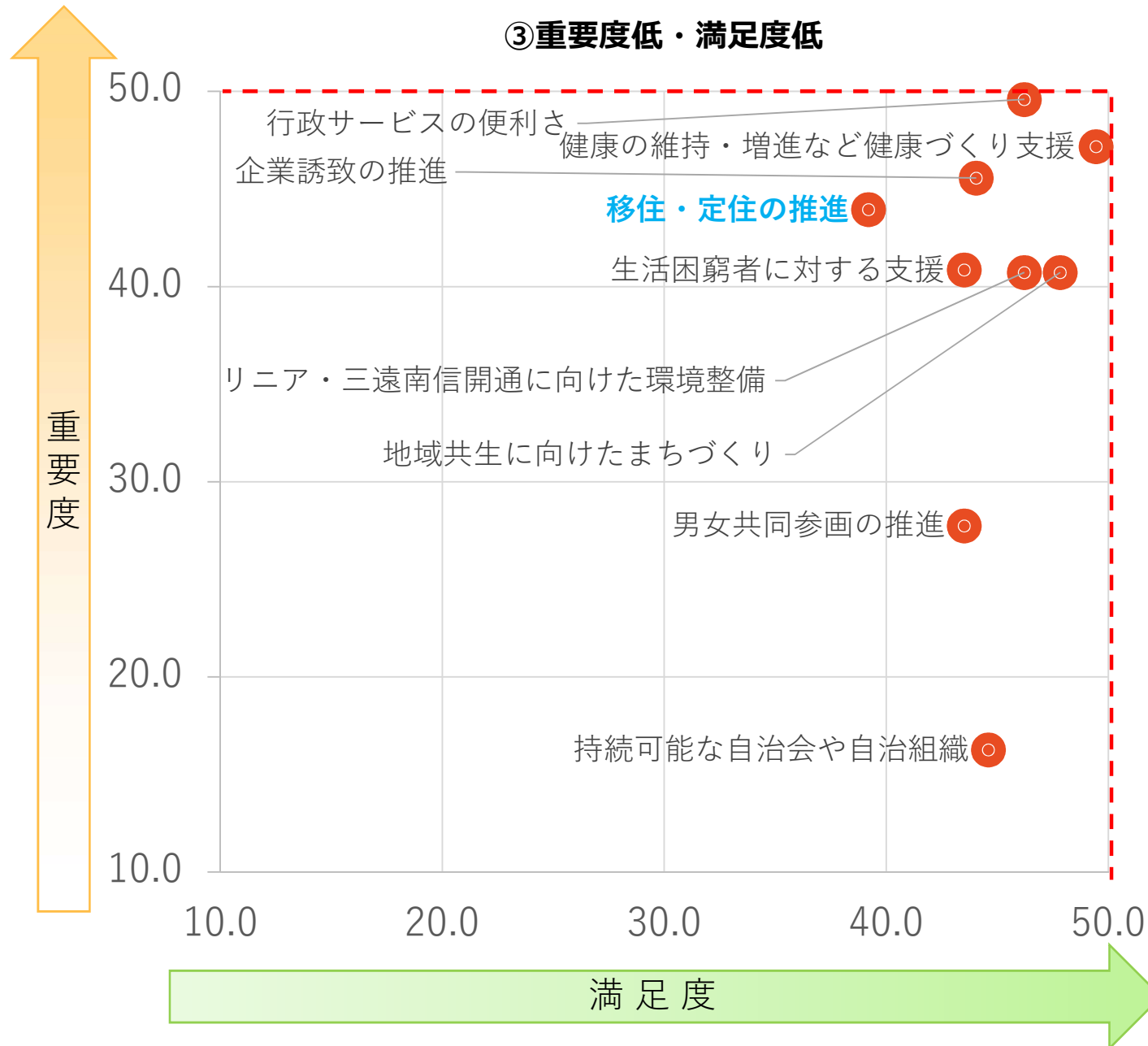
⇒ どの年代でも、③重要度 低 ・ 満足度 低い
という分析

1.回答者全体

③重要度低・満足度低

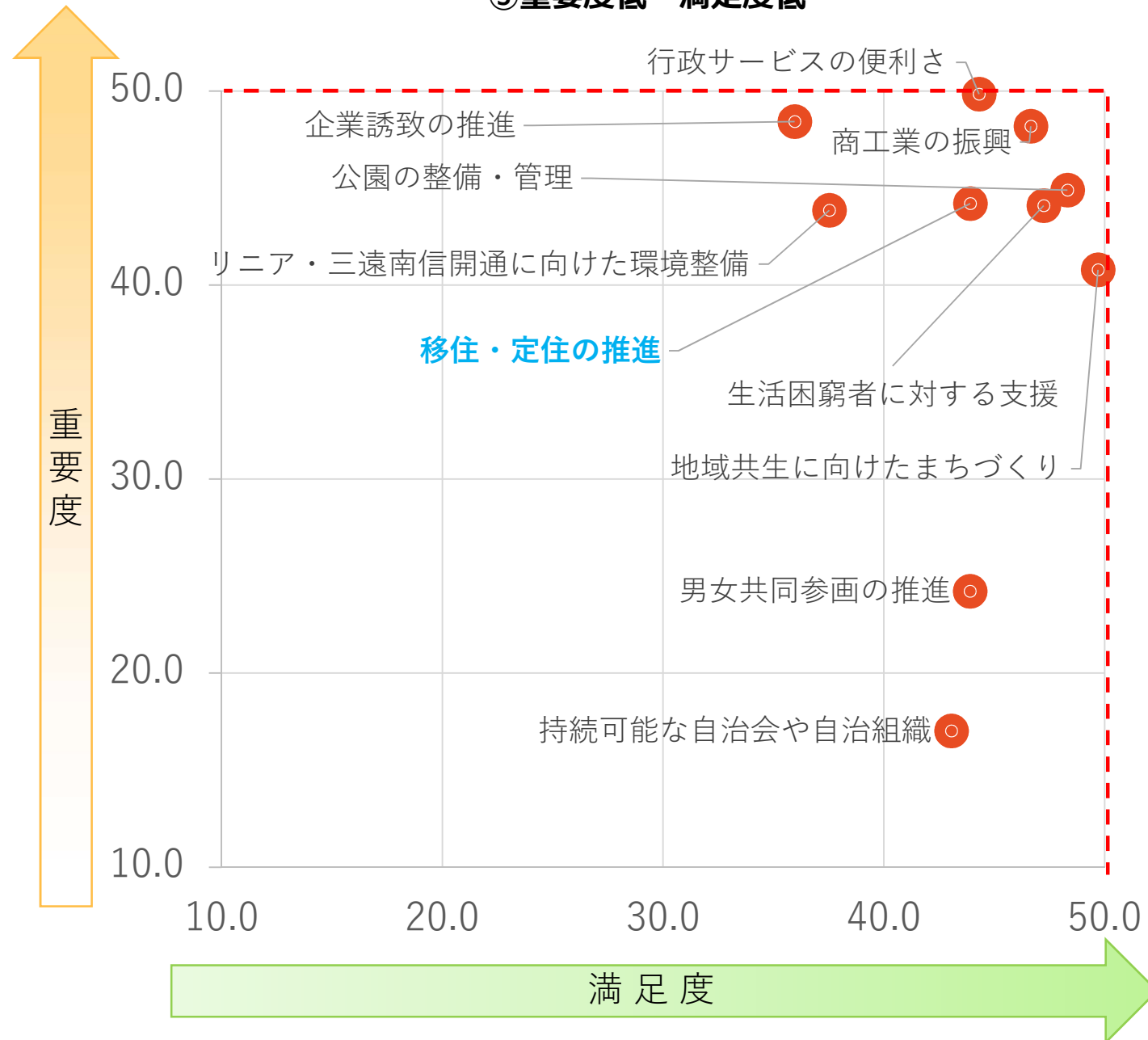


2.10歳代～20歳代

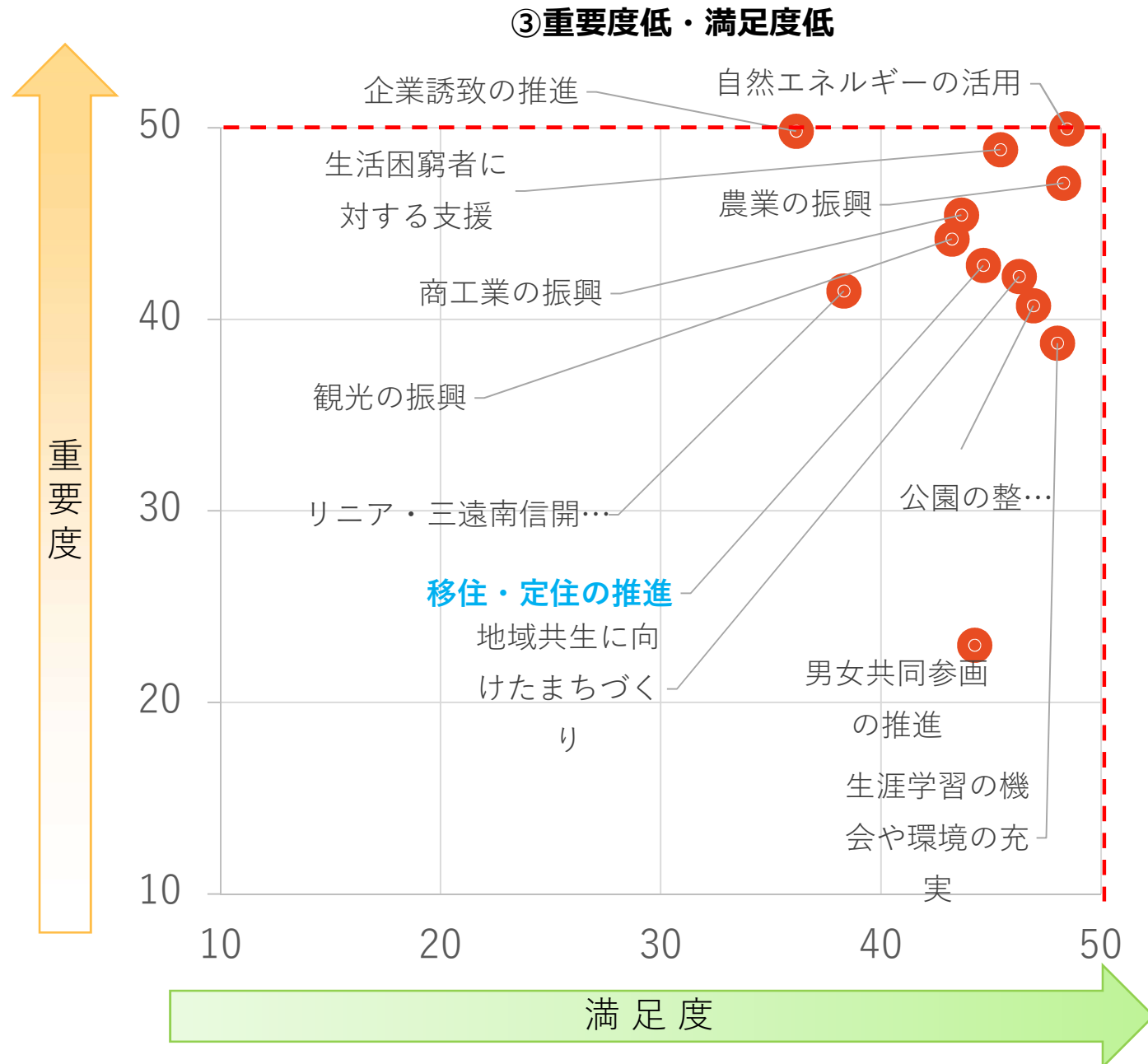


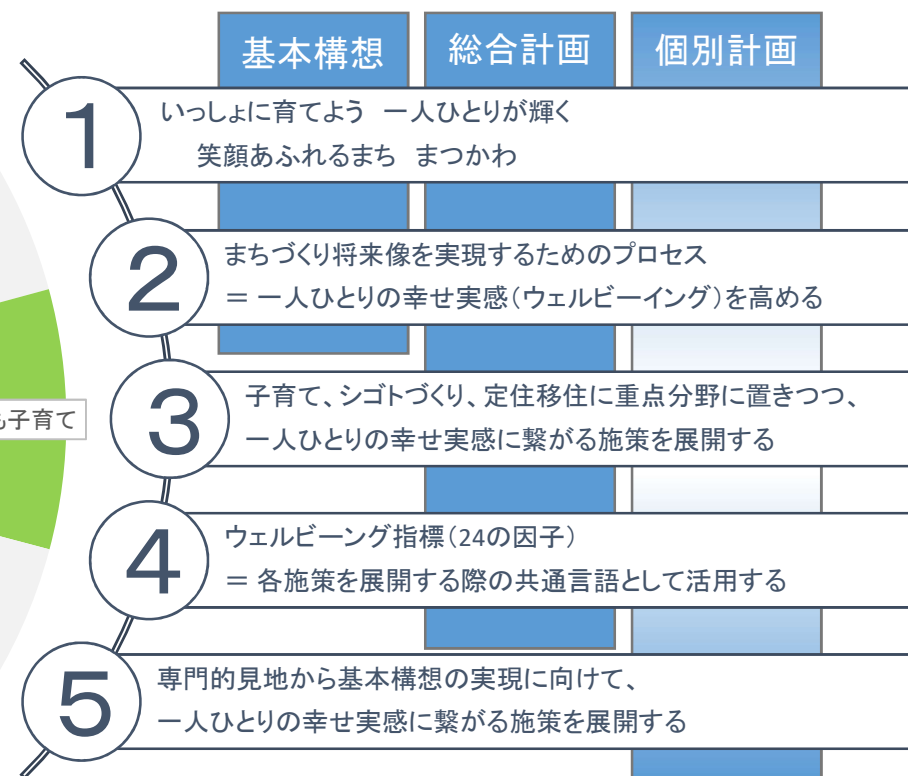
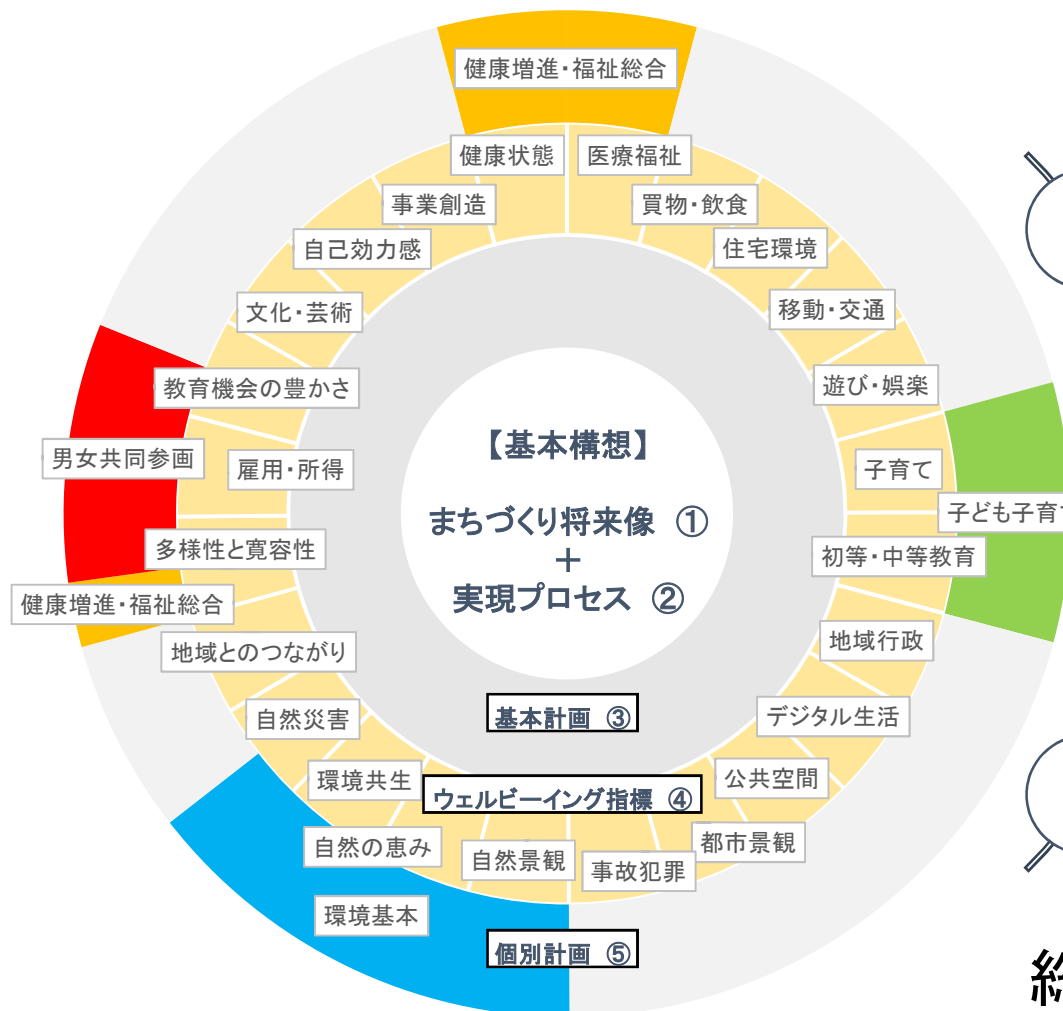
3.30歳代～50歳代

③重要度低・満足度低



4.60歳代～80歳代





総合計画と個別計画の位置づけ